

日本におけるポジティブ心理学の広がり

人間の幸福感や充実した生活を科学的に研究し、どのようにして人々がより良い生活を送れるかに焦点を当てているポジティブ心理学は、近年、日本全体で徐々に注目され、多くの分野でその活用が見られるようになってきました。

経済界

経済界においては、ポジティブ心理学は従業員の方のウェルビーイングや職場の生産性向上に活用されてきています。

前向きな職場環境の構築、働く方のモチベーション向上、チームワークの促進への取組み等には、ポジティブ心理学で実証されている手法が多く採用されています。



教育界

日本の教育界では、ポジティブ心理学（ポジティブ教育）が教育改革の新たな潮流として広く認識されています。なぜなら、ポジティブ教育が文部科学省の新学習指導要領の理念と密接に関連性があり、学生の学業成績を向上させるだけでなく、自己肯定感、レジリエンス、社会的スキルの育成にも重点を置かれているからであり、子どもたちの全人的な成長促進が期待できるからです。

本年、今後5年間の教育振興基本計画において『ウェルビーイングの向上』というコンセプトを示しました。その中で「子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要」と推奨されています。

この日本の教育の大きな動きに先駆け、向陽高校は、世界各国で既に成果が実証された「ポジティブ教育」実践のため、日本で唯一であり、県下にはない独自の科目を取り入れた「普通科」を2024年4月にスタートさせます。

自分の強みを発見し、逆境に直面しても前向きな態度を保つ力を身に付け、チームワーク、共感、コミュニケーションのスキルを高めることは、社会的な繋がりが促進されることを意味します。そして、それらの能力は、子どもたちの学業の大成だけでなく、将来のキャリアや人間関係においても、人生においてさえも大きな価値を持つことでしょう。

本校普通科（PCDコース）で学んだ生徒たちが、世界で活躍し、より良い人生を力強く創造してゆくことを向陽高校は願っています。